

<細胞像問題>

問題 1 40 歳代、女性。子宮体部腫瘍、子宮内膜擦過、エンドサイト。

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 類内膜癌 G1
4. 子宮内膜間質肉腫（低異型度）
5. 平滑筋肉腫

問題 2 40 歳代、女性。月経不順、子宮内膜吸引。

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 子宮内膜増殖症
4. 類内膜癌 G1
5. 明細胞癌

問題 3 20 歳代、女性。卵巣腫瘍、捺印。

1. 線維腫
2. 成熟奇形腫
3. セルトリ・ライデッヒ細胞腫
4. 未分化胚細胞腫（ディスジャーミノーマ）
5. 卵黄囊腫瘍

問題 4 30 歳代、女性。検診、子宮腔部擦過、サイトピック。

1. LSIL (CIN1)
2. HSIL (CIN3)
3. 上皮内腺癌
4. 非角化型扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 5 40 歳代、女性。検診、子宮腔部擦過、サイトピック。

1. NILM（修復細胞）
2. LSIL (CIN1)
3. HSIL (CIN3)
4. 非角化型扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 6 30 歳代、女性。検診、子宮腔部擦過、ブラシ。

1. NILM（カンジダ感染）
2. NILM（トリコモナス感染）
3. LSIL (CIN1)
4. HSIL (CIN2)
5. 角化型扁平上皮癌

問題 7 40 歳代、女性。検診、子宮腔部擦過、サイトピック。

1. NILM (扁平上皮化生)
2. NILM (頸管腺細胞)
3. HSIL (CIN3)
4. 角化型扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 8 30 歳代、女性。検診、子宮腔部擦過、ブラシ。

1. NILM (修復細胞)
2. NILM (エクソダス)
3. NILM (ヘルペスウイルス感染)
4. HSIL (CIN3)
5. 腺癌

問題 9 80 歳代、女性。不正出血、子宮腔部擦過、サイトピック。

1. NILM (萎縮性膣炎)
2. NILM (修復細胞)
3. HSIL (CIN3)
4. 非角化型扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 10 30 歳代、女性。検診、子宮腔部擦過、サイトピック。

1. NILM (修復細胞)
2. HSIL (CIN2)
3. HSIL (CIN3)
4. 非角化型扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 11 70 歳代、男性。血痰、気管支擦過細胞診。

1. 過誤腫
2. ニューモシスチス肺炎
3. 腺癌
4. 小細胞癌
5. 扁平上皮癌

問題 12 70 歳代、男性。肺腫瘍、腫瘍捺印標本。

1. 硬化性肺胞上皮腫
2. カルチノイド腫瘍
3. 腺癌
4. 小細胞癌
5. 腺様嚢胞癌

問題 13 50 歳代、男性。肺腫瘍、腫瘍捺印標本。

1. 硬化性肺胞上皮腫
2. カルチノイド腫瘍
3. 扁平上皮癌
4. 腺様嚢胞癌
5. 大細胞神経内分泌癌

問題 14 60 歳代、女性。胸部異常陰影、肺腫瘍捺印標本。

1. 類上皮細胞性肉芽腫
2. 過誤腫
3. 硬化性肺胞上皮腫
4. カルチノイド腫瘍
5. 腺様嚢胞癌

問題 15 10 歳代、女性。神経芽細胞腫化学療法および骨髄移植後、自然尿。

1. 正常尿路上皮細胞
2. デコイ細胞
3. 尿路上皮癌
4. 小細胞癌
5. 神経芽細胞腫

問題 16 70 歳代、男性。血尿、自然尿。

1. デコイ細胞
2. 反応性異型
3. 乳頭腫
4. 扁平上皮癌
5. 尿路上皮癌

問題 17 40 歳代、女性。膵尾部腫瘍、EUS-FNA。

1. 粘液性嚢胞腺腫
2. 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN)
3. 腺房細胞癌
4. 浸潤性膵管癌
5. 膵芽腫

問題 18 60 歳代、女性。乳腺腫瘍、穿刺吸引細胞診。

1. 線維腺腫
2. 乳腺線維症
3. 非浸潤性小葉癌
4. 粘液癌
5. 浸潤性乳管癌

問題 19 60 歳代、女性。甲状腺腫瘍、穿刺吸引細胞診。

1. 腺腫様甲状腺腫
2. 濾胞性腫瘍
3. 乳頭癌
4. 髓様癌
5. 未分化癌

問題 20 60 歳代、女性。左耳下腺腫脹、穿刺吸引細胞診。

1. 多形腺腫
2. ワルチン腫瘍
3. 基底細胞癌
4. 粘表皮癌
5. 唾液腺導管癌

問題 21 40 歳代、男性。第四脳室腫瘍、切除標本捺印細胞診。

1. 神経鞘腫
2. 膠芽腫
3. 上皮腫
4. 脊索腫
5. 髄膜腫

問題 22 50 歳代、男性。頸部リンパ節腫大、穿刺吸引細胞診。

1. 結核症
2. 亜急性壊死性リンパ節炎
3. 腺癌の転移
4. 古典的ホジキン病
5. びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫

問題 23 70 歳代、男性。呼吸困難、胸水塗抹標本。

1. 反応性中皮細胞
2. 腺癌
3. 扁平上皮癌
4. 悪性中皮腫
5. 悪性リンパ腫

問題 24 10 歳代、男性。右大腿骨透瞭像（皮質破壊を認める）、生検標本捺印細胞診。

1. 骨髓炎
2. 類上皮肉腫
3. ユーイング肉腫
4. 骨肉腫
5. 軟骨肉腫

問題 25 60 歳代、男性。舌縁白色病変、ブラシ擦過。

1. NILM（舌炎）
2. NILM（過角化症）
3. NILM（ヘルペスウイルス感染症）
4. HSIL（高度異形成）
5. 扁平上皮癌

<筆記問題>

問題 26 日本臨床細胞学会認定施設に対する精度管理ガイドラインについて正しいのはどれか。

1. 細胞検査士は常勤であることを必須とする。
2. 細胞検査士の1日の検査検体数量は100枚までである。
3. 陰性標本の5%以上において細胞診でのダブルチェックを行う。
4. 日本臨床細胞学会の主催する外部精度管理プログラムに参加が必須である。
5. 修正および追加報告書が作成された場合、元の報告書を含めて保存しなくてよい。

問題 27 一般的な悪性判定に有用な所見として誤っているのはどれか。

1. 細胞極性の保持
2. 不均一な核間距離
3. 細胞間の結合性低下
4. ユークロマチンの集積
5. クロマチン凝集の大小不同

問題 28 液状化検体細胞診法について誤っているのはどれか。

1. 再検が容易となる。
2. 遺伝子検索に不向きである。
3. 免疫染色の施行が容易である。
4. 乾燥に伴う不適性標本を減少させる。
5. 固定液に細胞を浮遊させるため細胞形態に変化が生じる。

問題 29 免疫染色において疾患と染色局在について正しいのはどれか。

1. HER2－乳癌－細胞質
2. PAX8－類内膜癌－核
3. PSA－前立腺癌－細胞膜
4. p40－肺扁平上皮癌－細胞質
5. CD30－卵黄嚢腫瘍－細胞質

問題 30 有機溶剤のキシレンについて正しいのはどれか。

1. 作業環境測定は1年以内に一度行う。
2. 女性労働基準規則の対象物質ではない。
3. 直接手指で触れても経皮吸収されない。
4. 暴露量の測定にはメチル馬尿酸を測定する。
5. 有機溶剤中毒予防規則の第1種に含まれる。

問題 31 対策型子宮頸がん検診について正しいのはどれか。

1. 妊婦には施行しない。
2. 対象年齢は20歳からである。
3. 施行間隔は1年に1度である。
4. 日本での検診受診率は欧米と同等である。
5. 子宮内膜細胞診との併用検診が推奨されている。

問題 32 HSIL/CIN3 の細胞像について正しいのはどれか。

1. 背景は壊死性である。
2. 無核の角化細胞がみられる。
3. 明瞭な核小体が認められる。
4. 深層型の核異型細胞が主体となる。
5. 核/細胞質 (N/C) 比は 60%以下である。

問題 33 放射線照射後の子宮頸部の細胞像として誤っているのはどれか。

1. 核の膨化
2. 空胞形成
3. 巨細胞の出現
4. N/C 比の増大
5. 細胞質の染色性変化

問題 34 子宮内膜細胞診について正しいのはどれか

1. 卵管癌の診断の契機にならない。
2. 正診率は子宮頸部細胞診と同等である。
3. 増殖期のクロマチンは不均等分布を示す。
4. 分泌期内膜細胞は豊富な細胞質を有する。
5. 類内膜癌 G1 は G3 と比較して腫瘍細胞の結合性が乏しい。

問題 35 子宮絨毛性疾患について誤っているのはどれか。

1. 絨毛癌では、絨毛形態は認めない。
2. 全胎状奇胎は父親に由来する雄核発生である。
3. 水腫様流産では栄養膜細胞の異常増殖が認められる。
4. 細胞診で侵入奇胎と非侵入奇胎との区別は困難である。
5. 全胎状奇胎の診断には p57Kip2 抗体を用いた免疫組織化学的検査が有用である。

問題 36 ベセスダ分類に関して正しいものはどれか。

1. 上皮内癌は SCC に含まれる。
2. AGC では 6 か月後の細胞診が推奨される。
3. ASC-US は全 ASC の 10%以下であることが望ましい。
4. ASC-H の場合、コルポスコピーおよび狙い生検が推奨される。
5. 子宮頸部直接塗抹標本では、1,000 個以上の扁平上皮細胞数が適正と規定されている。

問題 37 喀痰細胞診について正しいのはどれか。

1. 就眠直前の喀痰を採取する。
2. 塗抹後は、乾燥させてから固定する。
3. 肺がん検診は、3 日間の蓄痰法で行う。
4. 肺末梢型早期肺癌の検出を目的として行う。
5. 喀痰細胞診は、室温で 48 時間以上たった検体でも可能である。

問題 38 肺腫瘍について誤っているのはどれか。

1. 肺過誤腫 — 硝子様軟骨細胞
2. 硬化性肺胞上皮腫 — II 型細胞
3. 多形癌 — 肉腫様癌
4. 腺様嚢胞癌 — 唾液腺型腫瘍
5. 粘膜関連リンパ組織型 (MALT) リンパ腫 — IgG4 陽性形質細胞

問題 39 肺腫瘍と細胞所見の組み合わせについて誤っているのはどれか。

- | | | |
|--------------|---|---------|
| 1. 扁平上皮癌 | － | 中心性核 |
| 2. 腺様嚢胞癌 | － | 中間細胞 |
| 3. 小細胞癌 | － | 木目込み状配列 |
| 4. カルチノイド腫瘍 | － | 形質細胞様細胞 |
| 5. 大細胞神経内分泌癌 | － | 明瞭な核小体 |

問題 40 尿細胞診について誤っているのはどれか。

1. 時として尿中に精子が認められる。
2. 自然尿中にアンブレラ細胞は認められない。
3. 畜尿での尿細胞診では、時に細胞変性を伴う。
4. カテーテル尿では、集塊状の尿路上皮細胞が出現しやすい。
5. 男性に比べ女性では、扁平上皮系の細胞が認められることが多い。

問題 41 尿細胞診にみられる所見と病原体の関係について誤っているのはどれか。

- | | | |
|-----------|---|------------|
| 1. 多核細胞 | － | 単純ヘルペスウイルス |
| 2. デコイ細胞 | － | ポリオーマウイルス |
| 3. 核内封入体 | － | マラコプラキア |
| 4. 類上皮細胞 | － | 抗酸菌 |
| 5. コイロサイト | － | パピローマウイルス |

問題 42 膵病変に対する EUS-FNA (Endoscopic ultrasound guided-fine needle aspiration) について誤っているのはどれか。

1. 内分泌腫瘍の診断に有用である。
2. 膵管上皮内癌の診断に有用である。
3. 膵癌と腫瘍形成性膵炎の鑑別に有用である。
4. 経皮的穿刺と比較して病変から採取しやすい。
5. 悪性膵嚢胞性病変では細胞採取量が少ない。

問題 43 乳腺穿刺吸引細胞診について正しいのはどれか。

1. 粘液が出現する時は、悪性と判定できる。
2. 線維腺腫では背景に筋上皮細胞がみられない。
3. 乳管内乳頭腫では、結合性良好な大型集塊が出現する。
4. 非浸潤性乳管癌では、細胞集塊には筋上皮細胞はみられない。
5. アポクリン病変では、筋上皮が欠如していれば悪性と判定できる。

問題 44 甲状腺病変の細胞像として正しい組み合わせはどれか。

- | | | |
|------------|---|----------|
| 1. 橋本病 | － | 壊死性背景 |
| 2. 亜急性甲状腺炎 | － | 多核組織球 |
| 3. 濾胞性腫瘍 | － | ローピーコロイド |
| 4. 乳頭癌 | － | 細胞質内小腺腔 |
| 5. 髄様癌 | － | リンパ球背景 |

問題 45 体腔液細胞診について正しいのはどれか。

1. 腺癌細胞は長い微絨毛が特徴的である。
2. 肺癌に対する EGFR の遺伝子検査が可能である。
3. 砂粒体を伴った乳頭状集塊出現は腹膜偽粘液腫の特徴である。
4. 腹水中の腺癌は細胞間に”窓 (window)” を形成するのが特徴である。
5. 腺癌細胞のアルシアンブルー陽性物質はヒアルロニダーゼ処理で消失する。

選択問題 A

問題 46 HPV について正しいのはどれか。

1. 16 型は尖圭コンジローマの発生に関与する。
2. コイロサイトの存在は感染に伴う変化である。
3. 一過性の感染は 10%以下の女性で認められる。
4. 58 型は分葉状頸管腺過形成の発生に関与する。
5. ASC-US に対してはジェノタイプ検査が推奨される。

問題 47 卵巣腫瘍の細胞像について正しい組み合わせはどれか。

1. 漿液性癌 — Reinke crystal
2. 卵黄嚢腫瘍 — Hyaline globule
3. 卵巣甲状腺腫 — 核内封入体
4. 顆粒膜細胞腫 — Psammoma body
5. ブレンナー腫瘍 — Call-Exner body

問題 48 子宮頸部細胞診について正しいのはどれか。

1. 細胞採取器具は綿棒が推奨される。
2. 壊死性背景が認められれば悪性と判定する。
3. LSIL に対してコルポスコピー検査は不要である。
4. 50%エタノールで固定する。
5. SCJ (扁平上皮—円柱上皮境界) を中心に細胞採取を行う。

問題 49 細胞所見の組み合わせとして誤っているのはどれか。

1. 奇怪細胞 — 角化型扁平上皮癌
2. クルー細胞 — 細菌性膣症
3. ゴースト細胞 — クラミジア感染
4. キャノンボール — トリコモナス膣炎
5. 子宮内膜修復細胞 — 子宮内避妊器具の使用

問題 50 膣細胞診の所見で正しいのはどれか。

1. 幼児期は表層細胞優位である。
2. 舟状細胞は妊娠中期に出現する。
3. エクソダスは分泌期に見られる。
4. 産褥期には成熟指数 (M. I.) は右方移動を示す。
5. 新生児期には成熟指数 (M. I.) は左方移動を示す。

選択問題 B

問題 51 悪性中皮腫診断に FISH による解析が有効なマーカーはどれか。

1. p16
2. p21
3. p40
4. p62
5. p63

問題 52 乳管内乳頭腫の細胞像として適切でないのはどれか。

1. 組織球
2. 化生細胞
3. 線維血管性間質
4. 細胞質内小腺腔
5. シート状細胞集塊

問題 53 膠芽腫の診断に重要な所見はどれか。

1. 核周囲空胞
2. ロゼット形成
3. 渦巻き様構造
4. ローゼンタール線維
5. 核の偽柵状配列を伴う壊死

問題 54 悪性リンパ腫について誤っているのはどれか。

1. 脳原発リンパ腫には B 細胞性が多い。
2. 腸管原発リンパ腫には B 細胞性が多い。
3. 縦隔原発リンパ腫には B 細胞性が多い。
4. 皮膚原発リンパ腫には T 細胞性が多い。
5. 古典的ホジキンリンパ腫は節外性発生が多い。

問題 55 骨・軟部腫瘍について誤っているのはどれか。

1. 平滑筋腫は男性より女性に多い。
2. 滑膜肉腫は関節内に好発する。
3. 軟骨肉腫の好発年齢は 30 歳以上である。
4. 横紋筋肉腫の好発年齢は 10 歳以下である。
5. 悪性神経鞘腫はレックリングハウゼン病由来のことが多い。

選択問題 C

問題 56 小児の唾液腺悪性腫瘍で最多を占めるのはどれか。

1. 粘表皮癌
2. 腺様嚢胞癌
3. 腺房細胞癌
4. 唾液腺導管癌
5. 多形腺腫由来癌

問題 57 従来型塗抹法と比較した液状化検体細胞診の利点はどれか。

1. 必要経費の削減
2. 染色時間の短縮
3. 検体の永久保存
4. 標本品質の標準化
5. 作製手順の簡素化

問題 58 口腔扁平上皮癌の好発部位はどれか。

1. 舌
2. 顎骨
3. 口唇
4. 軟口蓋
5. 頬粘膜

問題 59 オレンジG好性扁平上皮細胞の量的比率が最も高い部位はどれか。

1. 口底
2. 歯肉
3. 頬粘膜
4. 舌下面
5. 軟口蓋

問題 60 Giemsa 染色においてメタクロマジーが見られるのはどれか。

1. 軟骨基質
2. 上皮性粘液
3. カンジダ仮性菌糸
4. コレステリン結晶
5. ケラトヒアリン顆粒

< 検鏡問題 >

総合科

標本番号 1

年齢・性別 40 歳代・女性
臨床情報 検診
検体・採取法 子宮腔頸部・サイトブラシ

問題 1 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 2 推定診断として最も適切なものはどれか

1. カンジダ膣炎
2. LSIL/CIN1
3. HSIL/CIN3
4. Squamous cell carcinoma
5. Adenocarcinoma

標本番号 2

年齢・性別 20 歳代・女性
臨床情報 検診
検体・採取法 子宮腔頸部・綿棒

問題 3 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 4 推定診断として最も適切なものはどれか

1. トリコモナス膣炎
2. LSIL/CIN1
3. HSIL/CIN3
4. Squamous cell carcinoma
5. Glassy cell carcinoma

標本番号 3

年齢・性別 50 歳代・女性
臨床情報 検診
検体・採取法 子宮腔頸部・綿棒

問題 5 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 6 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 萎縮性膣炎
2. トリコモナス膣炎
3. HSIL/CIN3
4. Squamous cell carcinoma
5. Adenocarcinoma

標本番号 4

年齢・性別 60 歳代・女性
臨床情報 不正性器出血
検体・採取法 子宮腔頸部・サイトブラシ

問題 7 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 8 推定診断として最も適切なものはどれか

1. ヘルペス膣炎
2. LSIL/CIN1
3. HSIL/CIN3
4. Squamous cell carcinoma
5. Adenocarcinoma

標本番号 5

年齢・性別 50 歳代・女性
臨床情報 不正性器出血
検体・採取法 子宮腔頸部・ブラシ

問題 9 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 10 推定診断として最も適切なものはどれか

1. カンジダ膣炎
2. LSIL/CIN1
3. HSIL/CIN3
4. Squamous cell carcinoma
5. Small cell carcinoma

標本番号 6

年齢・性別 50 歳代・女性
臨床情報 不正性器出血
検体・採取法 子宮内膜・エンドサイト

問題 11 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 12 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 子宮内膜増殖症
4. 類内膜癌 (G1)
5. 類内膜癌 (G3)

標本番号 7

年齢・性別 30 歳代・女性
臨床情報 不正性器出血
検体・採取法 子宮内膜・吸引

問題 13 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 14 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 子宮内膜増殖症
4. 類内膜癌（G1）
5. 漿液性癌

標本番号 8

年齢・性別 70 歳代・女性
臨床情報 不正性器出血
検体・採取法 子宮内膜・エンドサイト

問題 15 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 16 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 子宮内膜増殖症
4. 類内膜癌（G1）
5. 漿液性癌

標本番号 9

年齢・性別 50 歳代・女性
臨床情報 腹部膨満感
検体・採取法 卵巣腫瘍擦印

問題 17 細胞所見として最も適切なものはどれか

1. 核溝
2. 砂粒体
3. 硝子滴

問題 18 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 漿液性癌
2. 明細胞癌
3. 未熟奇形腫
4. 卵黄嚢腫瘍
5. 顆粒膜細胞腫

標本番号 10

年齢・性別 50 歳代・女性
臨床情報 卵巣腫瘍
検体・採取法 腫瘍摘出時の洗浄腹水

問題 19 細胞所見として該当しないのはどれか

1. 泡沫状の細胞質
2. 砂粒体の出現
3. 明瞭な核小体

問題 20 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 組織球
2. 類内膜癌
3. 粘液癌
4. 明細胞癌
5. 漿液性癌

標本番号 11

年齢・性別 60 歳代・男性
臨床情報 耳下腺部腫脹
検体・採取法 左耳下腺・穿刺吸引

問題 21 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（異常、悪性、前駆病変）

問題 22 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 木村病(eosinophilic lymphofolliculoid granuloma)
2. ワルチン腫瘍
3. 唾液腺導管癌
4. びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫
5. 古典的ホジキンリンパ腫

標本番号 12

年齢・性別 80 歳代・男性
臨床情報 甲状腺腫瘍
検体・採取法 甲状腺・穿刺吸引

問題 23 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 24 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 濾胞性腫瘍
2. 乳頭癌
3. 髄様癌
4. 未分化癌
5. 悪性リンパ腫

標本番号 13

年齢・性別 50 歳代・女性
臨床情報 胸部異常陰影
検体・採取法 縦隔リンパ節・EUS-FN

問題 25 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 26 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 皮膚リンパ節炎
2. 組織球性壊死性リンパ節炎（菊池病）
3. 辺縁帯B細胞リンパ腫
4. びまん性大細胞型B細胞リンパ腫
5. 古典的ホジキンリンパ腫

標本番号 14

年齢・性別 60 歳代・女性
臨床情報 乳腺腫瘤
検体・採取法 乳腺・穿刺吸引

問題 27 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 28 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 線維腺腫
2. 乳管内乳頭腫
3. 葉状腫瘍
4. 浸潤性小葉癌
5. 浸潤性微小乳頭癌

標本番号 15

年齢・性別 60 歳代・男性
臨床情報 胸部異常陰影
検体・採取法 肺腫瘤・腫瘤捺印

問題 29 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 30 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 硬化性肺胞上皮腫
2. カルチノイド腫瘍
3. 扁平上皮癌
4. 腺様嚢胞癌
5. 大細胞神経内分泌癌

標本番号 16

年齢・性別 70 歳代・男性
臨床情報 左肺下葉腫瘤影
検体・採取法 痰・喀痰

問題 31 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 32 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 基底細胞増生
2. 扁平上皮化生細胞
3. 扁平上皮癌
4. 腺癌
5. 大細胞癌

標本番号 17

年齢・性別 70 歳代・男性
臨床情報 血尿
検体・採取法 尿・カテーテル

問題 33 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 34 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 尿道炎
2. 反応性尿路上皮細胞
3. 尿路上皮乳頭腫
4. 高異型度尿路上皮癌
5. 腺癌（大腸癌の転移）

標本番号 18

年齢・性別 50 歳代・女性
臨床情報 排尿障害
検体・採取法 膀胱頂部腫瘤・腫瘤捺印

問題 35 細胞所見として該当しないのはどれか

1. 壊死性背景
2. 高円柱上皮
3. 異常角化

問題 36 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 膀胱結核
2. 高異型度尿路上皮癌
3. 扁平上皮癌（子宮頸癌）
4. 腺癌（尿膜管癌）
5. 悪性リンパ腫

標本番号 19

年齢・性別 70 歳代・男性
臨床情報 閉塞性黄疸
検体・採取法 胆汁・胆管ブラシ

問題 37 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 38 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 良性胆管上皮細胞
2. 粘液性嚢胞腺腫
3. 腺癌
4. 神経内分泌癌
5. 癌肉腫

標本番号 20

年齢・性別 60 歳代・男性
臨床情報 胸水貯留
検体・採取法 胸水・穿刺吸引

問題 39 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 40 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 反応性中皮細胞
2. 結核性胸膜炎
3. 腺癌
4. 悪性中皮腫
5. 悪性リンパ腫

歯科

標本番号 1

年齢・性別 70 歳代・女性
臨床情報 舌縁部疼痛
検体採取法 擦過細胞診、ブラシ

問題 1 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 2 推定診断として最も適切なものはどれか

1. NILM（過角化症）
2. NILM（カンジダ症）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 2

年齢・性別 60 歳代・男性
臨床情報 耳下腺腫脹
検体採取法 穿刺吸引細胞診

問題 3 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 4 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 多形腺腫
2. ワルチン腫瘍
3. 粘表皮癌
4. 腺房細胞癌
5. 腺様嚢胞癌

標本番号 3

年齢・性別 80 歳代・女性
臨床情報 歯肉腫脹
検体採取法 擦過細胞診、ブラシ

問題 5 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 6 推定診断として最も適切なものはどれか

1. NILM（歯周炎）
2. NILM（ヘルペスウイルス感染）
3. 粘表皮癌
4. 悪性リンパ腫
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 4

年齢・性別 10 歳代・女性
臨床情報 口唇腫瘍
検体採取法 穿刺吸引細胞診

問題 7 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 8 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 膿瘍
2. 粘液嚢胞
3. リンパ管腫
4. 多形腺腫
5. 粘表皮癌

標本番号 5

年齢・性別 60 歳代・男性
臨床情報 顎骨腫脹
検体採取法 穿刺吸引細胞診

問題 9 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 10 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 歯根嚢胞
2. 歯原性角化嚢胞（角化嚢胞性歯原性腫瘍）
3. エナメル上皮腫
4. 原発性骨内癌
5. エナメル上皮癌

標本番号 6

年齢・性別 50 歳代・男性
臨床情報 頬粘膜白斑
検体採取法 擦過細胞診、ブラシ

問題 11 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 12 推定診断として最も適切なものはどれか

1. NILM（過角化症）
2. NILM（カンジダ症）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 7

年齢・性別 40 歳代・男性
臨床情報 歯肉腫脹
検体採取法 擦過細胞診、ブラシ

問題 13 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 14 推定診断として最も適切なものはどれか

1. NILM（顎放線菌症）
2. NILM（尋常性天疱瘡）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 8

年齢・性別 50 歳代・女性
臨床情報 頬粘膜腫脹
検体採取法 穿刺吸引細胞診

問題 15 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 16 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 多形腺腫
2. ワルチン腫瘍
3. 粘表皮癌
4. 腺房細胞癌
5. 腺様嚢胞癌

標本番号 9

年齢・性別 20 歳代・男性
臨床情報 顎骨腫脹
検体採取法 穿刺吸引細胞診

問題 17 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 18 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 歯根嚢胞
2. 歯原性角化嚢胞（角化嚢胞性歯原性腫瘍）
3. エナメル上皮腫
4. 原発性骨内癌
5. 転移性腺癌

標本番号 10

年齢・性別 40 歳代・女性
臨床情報 耳下腺腫脹
検体採取法 穿刺吸引細胞診

問題 19 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 20 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 多形腺腫
2. ワルチン腫瘍
3. 粘表皮癌
4. 腺房細胞癌
5. 腺様嚢胞癌

標本番号 11

年齢・性別 50 歳代・男性
臨床情報 舌腫瘍
検体採取法 擦過細胞診、ブラシ

問題 21 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 22 推定診断として最も適切なものはどれか

1. NILM（過角化症）
2. NILM（カンジダ症）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 12

年齢・性別 60 歳代・女性
臨床情報 口蓋の疼痛
検体採取法 擦過細胞診、ブラシ

問題 23 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 24 推定診断として最も適切なものはどれか

1. NILM（過角化症）
2. NILM（尋常性天疱瘡）
3. NILM（ヘルペスウイルス感染）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）